

2010 年度事業報告

(2010 年 4 月 1 日から 2011 年 3 月 31 日まで)

I. 2010 年度活動概要

2010 年秋、地方再生のモデルとしてのコミュニティづくりをめざしつくりあげてきた「ゆいま〜る那須」がオープンした。続く都市郊外型モデル事業として多摩市・日野市を拠点とし住み慣れた地域に安心して暮らすことができるコミュニティづくりを中心に支援活動を展開した。

1. 重点活動

1) コミュニティ事業

多世代コミュニティモデルづくりの推進

2009 年 7 月から「私の暮らしたい高齢者住宅をつくる会」をはじめ、「自分が住みたいと思う高齢者のすまいづくり」について多くの場をつくりあげてきた。多様な価値観の人々が集い、お互いの生活を尊重しながら 3 世代にわたって継承・維持していくまち「100 年コミュニティ構想」に基づき、新たに東京都下にて 2 つの拠点で活動を行った。

2) 人材育成事業

人材育成プロジェクト

2009 年に 15 都府県から「ふくし留学」1 期生として入学した 22～63 歳の計 38 人は、介護福祉士の資格を取得し今春、無事卒業式を終えた。36 人が資格を活かし介護の現場で再起の出発。内 15 名は県内で就職する。神楽行事や、畑仕事を通じ、積極的に地元住民との交流をはかり地域を盛り上げた実績にたいして、六日市医療技術専門理事長から卒業証書に加え感謝状も授与された。

II 定款事業報告

1. 社会の変革に対応し、人間性豊かな、住民自治に基づくコミュニティづくりを具体的に探求するための調査・研究及び提言等を行う（定款第 4 条（1）事業）

1. 委員会活動

(1) コミュニティファンド委員会

・主な活動

満期ファンドの継続に関し多くの出資者から同意を頂き運用期間延長の手続きをした。また「100 年コミュニティ」に対するコミュニティファンド実践事業者の首都圏事業本格化に伴い、入居金の事前手当とも言える少人数私募債の事務を全面的に代行。計画の支援を希望する人々のお手伝いをした。

<開催セミナー>

1 講師：小溝毅（株式会社地域活性ファンド 代表取締役）

①「多摩ニュータウンとコミュニティファンド」

～ソーシャルバンクを目指して第一歩～

【東京】10月8日40名

②「100年コミュニティファンドをご存じですか？」

～意思あるお金の使い方～

【東京】2月3日30名

3) 完成期医療福祉委員会

実践の場として、2009年秋オープンした「100年コミュニティ」の拠点である「ゆいま～る・伊川谷」。オープンから1年経った現在、以前から神代会長が主体となり実施している「完成期医療福祉をすすめる会」にて入居者や外部の方々との意見交換の場を定期的で開催した。

また新しいネットワークの場として、高木忠彦先生が主体となって、入居者のひとが自由に出入りできる「ひだまりのやど」を開設し新たな入居者の憩いの場となっている。

また、2010年秋オープンした「ゆいま～る那須」では、2011年3月11日東日本大震災のため、伊川谷へ一時避難した際、入居者の中で「完成期医療福祉グループ」を神代会長と共に形成した。

2. 調査・研究事業

1) 北海道厚沢部町高齢者施設等整備調査

都市部の潜在的移住希望者の組織化に関する研究会を設置。高齢者の移住に関する意識調査アンケートを行った。アンケート内容を基に高齢者が抱えている問題・不安などを分析。本調査において、厚沢部地方の人口減少という過疎化の過程を検証しながら、次世代にどのように立て直しを図っていくのか、活性化の糸口がどこにあり、活性化にむけた高齢者住宅をどのような視点で建設・運営するべきかを検討することによって、地方活性化の原動力となる考え方は何かを全国主要地域において移住についての意見集約、意識調査を行い、展望をまとめることを目的とした。

都市部における移住希望者のニーズ調査を行った。移住にあたり医療・介護の安心が求められている現状を踏まえ、移住希望者が終の棲家として安心して暮らすことのできるように、また厚沢部町の抱えている高齢化問題の解決に向け厚沢部町と連携及び協議を進めために、地域ケアシステム検討協議会を設置した。

2. コミュニティづくりを推進するための事業を開発し、事業の運営組織のネットワークを構築し、コミュニティ事業を普及する（定款第4条（2）事業）

1) 那須プロジェクト

I. 2010年度活動概要

2007年夏、「那須で100年コミュニティをつくる会」の実行委員会が中心となり「那須での暮らしを考える会」「ゆいま～る那須友の会」、「ロングステイの会」など、参加型による検討を重ね、暮らしかたについて語り合う「場」を提供してきたプロジェクトも2010年秋無事オープンの日を迎えた。高齢者住宅という既存概念の枠に囚われないコンセプト、取組が評価され、また国土交通省が推進する「高齢者居住安定化モデル事業」に選定されたこともあり、各メディアからの取材が多く入った。入居後の生活においても「住まい手参加型」コミュニティの醸成を重視し、「仕事部会」などで具体的な生活設計や暮らし方のイメージについての話し合いを重ねている。

また未曾有の東日本大震災直後、自発的に入居者の中のリーダーが「入居者相談グループ」を立ち

上げ話し合いを行い余震や停電、万が一の事態に備えた体制を決め備蓄の整えも行った。そして震災から5日後、新幹線の再開と共にゆいま〜る伊川谷への一時避難のため入居者全員が神戸へと向かった。伊川谷では、入居者・スタッフ・地元ボランティアの方々からの心温まる対応をいただきました。また、交流をたのしみながらあらためて「コミュニティ」の有難さ、重要さを実感した日々だった。

媒体掲載

- 2010/5/4 福島民法「那須で多世代共生住宅モデル 高齢者の住居や働く場 医療施設」
- 2010/5/11 東京新聞「エコで楽しい非電化生活」
- 2010/5/12 朝日新聞「ゆいま〜る那須 ついのすみか建設へ 自分らしい老いを探る」
- 2010/5/25 日本経済新聞「らいふプラス 終のすみかはどこに 老後をデザインする」
- 2010/7/2 福島民報「ゆうゆう倶楽部とは？」セミナー告知
- 2010/12 雑誌ゆうゆう「今年こそ仕訳生活」
- 2011/1/17 NHK TV「おはよう日本」
- 2011/1/17 NHK 第一ラジオ「ラジオ・ジャーナル」
- 2011/2 総合ユニコム 月刊レジャー産業「単身“不安”社会を変える!？」
「すまい方」新局面 孤独化・高齢化をもたらす新たなコミュニティの胎動
- 2011/3/20 サンテレビ「ニュースシグナル」入居者・ハウス長 取材

2) 神戸・伊川谷プロジェクト

I. 2010 年度活動概要

2009 年秋にオープンした「ゆいま〜る伊川谷」では、多様な人たちを対象としたセミナー・勉強会・季節のイベントなど多数開催した。5 月には NPO 椿アンサンブルとの共催イベント「ゆいま〜る伊川谷グリーンフェスタ」を企画。入居者参加によるバザー開催、雅楽舞演奏、屋台など近隣の方が多数参加した地域の盛大なイベントとなった。

理学療法士の指導による「リハ・リハ健康体操教室」の定期開催や、春には、桜の名所として知られる鶴山公園（津山城址）～湯郷温泉～岡山ワイナリー工場などをめぐるバス旅行を企画開催。住民スタッフ有志参加による楽しい 1 日となった。

5 月からは、入居者の方々が企画・取材・編集した「伊川谷通信」をリニューアル発行することとなり、参加型の文化活動を継続している。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災で被災したゆいま〜る那須の入居者の一時受け入れが神戸新聞に大きく報じられ地元ボランティアグループの支援や近隣の方からの暖かい支援の申し出を多数受けた。コミュニティ醸成の重視さをアピールした結果となった。

3) 島根・吉賀町プロジェクト

福祉専門学校の六日市学園を核とした人材育成事業に加えて、昨年度から引き続き吉賀町からの業務委託を中心に都市と地方の移住・交流受入システムの構築事業に取り組んだ。また、行政・教育機関・病院などと連携した地方再生事業では、今年度から新たに吉賀町社会福祉協議会を加え「5 + 1 会議」をスタートさせ、町のトータルケアシステム構築に向けた働きかけを継続している。

媒体掲載

- 2010/8/6 中国新聞「高齢者住宅の着工延期 公的支援要請へ」
- 2010/11/30 山陰中央新報「医療技専で学ぼう 吉賀への“留学”説明会」
- 2010/12/9 中国新聞「失業後の入学 学ぶぬくもり」
- 2011/2/22 山陰中央新報「国制度活用の利点聞く 益田・吉賀介護福祉士セミナー」
- 2011/3/9 中国新聞「介護の現場へ再起の巣立ち」
- 2011/3/18 神戸新聞「高齢者 14 人全員神戸へ 栃木の集合住宅から 長期化も覚悟の上」

3. 高齢者等がグループで共住する場、コミュニティの交流の場、コミュニティ事業の拠点等、新しい生活スタイルを実現するコミュニティの場づくりを支援する（定款第4条（3）事業）

1) 私の暮らしたい高齢者住宅をつくる会

「いつまでも安心できる場所で自分らしく暮らす」コミュニティづくりの拠点づくりとして始まった「私の暮らしたい高齢者住宅をつくる会」では参加者の要望が多くよせられた「グループリビング」の暮らし方をテーマに話し合った。「豊かな生活を継続するためには」一緒にゆっくり暮らすこと、望む暮らしを選べないのは不自由、一人の力ではどうにもならない、プラスもマイナスも受け入れることがコミュニティであるなど、多様な価値観を認めながら、自分らしい「住まい方」についての話し合いの場を重ねた。

【高齢期の暮らし方を考える】をテーマに連続フォーラムを3回企画開催し毎回100名を超える集客となった。高齢期を誰と、何処でどのように暮らすか、自分の生き方・死に方は大変関心の高い問題となっていることを反映した結果となった。

第1回 【意思のある生き方、死に方】

「人生100年時代の幕開け」

講師：樋口恵子さん（NPO 法人高齢者社会をよくする女性の会代表）

「命をつなぐ看取りとコミュニティ」

講師：柴田久美子さん（NPO 法人なごみの里代表）

第2回 【在宅・ひとり死は可能か】

「在宅・ひとり死は可能か」

講師：上野 千鶴子 さん（東京大学 大学院教授）

「高齢者のコミュニティケア」

講師：天本 宏 さん（医療法人財団天翁会理事長）

第3回 【日本人の死生観】～楽に生き、楽に死ぬ～

講師：立川昭二さん（北里大学名誉教授・歴史家）

聞き手：寺田和代さん（社会福祉士・クロワッサン「女の新聞・介護」主筆）

4. コミュニティ事業の指導者、組織者、協力者等の人材を研修、育成するとともに、そのネットワークを構築して協力関係づくりを推進する（定款第4条（4）事業）

1) 福祉専門学校運営

(1) 島根県・吉賀町報告

「医療・介護・福祉・人材育成及び居住福祉」の視点で連携を図る目的で2008年11月締結した4者協定/に続いて、2009年7月、吉賀町・学校法人六日市学園・社会医療法人石州会・CNグループ〔社団法人コミュニティネットワーク協会、株式会社コミュニティネット〕の5者において、「福祉を核としたまちづくり」に乗り出すためあらたに5者協定を締結したが、今年度から新たに吉賀町社会福祉協議会を加え「5社+1会議」をスタートさせた。

この協定により、さらに行政や住民が連携し、互いに支えあうコミュニティの場づくりにむけて動きだした。

5. コミュニティ事業及びコミュニティづくりを促進するための企画の実施及び啓発・広報・出版を行う（定款第4条（5）事業）

1）暮らしと住まいの情報センターの常設

情報の受発信や、相談を受けて問題解決する場として、高齢者住宅、ふるさと暮らし、地域再生を柱とした「暮らしと住まいの情報センター」を開設。ウェブや通信物等で情報発信するほか、常設の展示場での情報提供、専門の相談員による住みかえを主とした相談業務を行った。

また、住まい方、暮らし方を中心としたセミナーや懇親会を開催し、情報提供や意見交換を行うほか、利用者同士の交流の場としても活用した。

高齢者住宅情報センターとして東京・大阪でネットワークを組み、個々のニーズに合わせた高齢者住宅の情報提供を行った。

<2010年度の主な活動>

第三者的な立場で高齢者およびその家族の住み替え相談に対し、情報提供や相談対応、紹介を行った。高齢者のニーズを蓄積して、事業者の相談にも応じている。

高齢者住宅情報センター主催で高齢者住宅に関するセミナーや見学会、私の暮らしたい高齢者住宅をつくる会、などを定期開催。イベントとしては、東京で事業者を集めたフォーラムを開催した。また、各種高齢者団体や行政、民間企業などが主催するセミナー講師を多数依頼された。

媒体掲載

- 2010/4/5 高齢者住宅新聞「特別座談会 有料老人ホーム・高専賃の現状と今後の理想像」
- 2010/5/2 サンデー毎日「年金だけでハッピー<老後の住まい>」
- 2010/6月 月刊ケアマネジメント 高専賃を「終いの棲家」に 参加型「ゆいま〜る」の試み
- 2010/6/8 毎日新聞 暮らしナビ 老後の安心ケアハウス シリーズ介護
- 2010/6/18 産経新聞 参議院に望む 高齢者が安心できる“終の棲家”を
- 2010/7/15 高齢者住宅新聞 「高齢期の暮らし方を考える」連続フォーラム開催
- 2010/9/2 読売新聞 すまい×すまう「老後の住まい」どうする？
- 2010/11/13 朝日新聞 人生デザイン つながる2血縁に頼らない 自宅開放集いの間
- 2010/10、12 2011/2
大阪住まい情報センター発行<あんじゅ> 高齢期の住まい方を4回連載
- 2010/12 消費生活センターニュース
「終のすみか、これからのライフスタイルを考えてみませんか」寄稿

2) 広報

1. 会報誌「ゆいま〜る」を年3回定期発行した

①発行:

41号 2010.01.15

■巻頭特集1 雇用創出 ― 経済不況の今だから「雇用される」から「働く」にシフトする ―

■巻頭特集2 雇用創出 ― 限界商店街、元気に働いて最期まで暮らす決心 土澤まちづく会社
「こっぼら土澤」 ―

ことば:「次の自分探し」の胎動の中で (CN協会理事 NPO 法人住んでみたい北海道推進会議総括
プロデューサー 大山慎介)

42号 2010.07.15

理事の今言っておきたいこと

神代尚芳 「完成期医療福祉とは」

近山恵子 「全員参加! 全員登場 ゆいま〜るのスタートです」

■特集

・連携で可能性を広げる 100年コミュニティプロジェクト

医療・介護の連携ですすめる『100年コミュニティ聖ヶ丘』

聖ヶ丘プロジェクトスタッフ 山岡理恵子

・地域連携ですすめる『100年コミュニティ多摩平』

多摩平プロジェクトスタッフ 久須美則子

・内外での多様・多角的連携が広がっている 『那須100年コミュニティプロジェクト』

那須プロジェクトスタッフ 関由美子

■トピックス

吉賀町の取り組み「生活安心サポート事業」 吉賀町プロジェクトスタッフ 亀山寿浩

厚沢部町訪問記 HOSP! 鏑木孝昭

■伊川谷だより ゆいま〜る伊川谷が居住福祉資源認定をうけました!

43号 2010.10.15

理事の今言っておきたいこと

神代尚芳 「コミュニティの再生へ」

■特集 那須100年コミュニティプロジェクト コア施設「ゆいま〜る那須」開設

関東初の完成期医療福祉の実践の場がスタート!

那須100年コミュニティプロジェクトのあゆみ 那須地元ネットワーク

■多摩平だより

“最期まで住み慣れた地域で暮らす”を考える会開催

■聖ヶ丘だより “セミナー報告「認知症とグループホームの役割」”

■伊川谷だより “地域のみなさまに浸透してきた、ゆいま〜る食堂の日常をお知らせ致します”

■吉賀町だより “移住・交流事業の取り組み ◎ふるさと回帰フェアのリポート”

■フォーラム報告 連続フォーラム

◎「高齢期の暮らし方を考える」

第1回 意思のある生き方、死に方

第2回 在宅・ひとり死は可能か

■会員のひろば

2.100年コミュニティ通信毎月、銀座通信を隔月定期発行した

高齢者住宅情報センター主催の見学会、セミナー開催の情報提供（東京）

Ⅲ. 協会運営

1. 総会

*2010.6.19（土）

2. 理事会

*2009.06.21（日）、2010.06.10（土）、2011.6.18（土）

3. 常務理事会

*2011.01.22（土）、4.17（土）、

4. 会員加入促進活動

1) 加入状況 11年3月末現在（10年度末）

法人：正会員	4、	賛助	68	
団体：正会員	2、	賛助	4	
個人：正会員	88、	賛助	104	
合計 正会員	94	賛助会員	176	=270（09年度末 279）

2) 情報提供の拡充

（1）常務理事会の定期報告

（2）各種セミナーなどの情報提供

5. 事務局体制 : 合計 1名

事務局 1名

以上